

### 3 各教科等の改訂のポイント

#### 小学校 国語科

#### 1 改訂の基本的な考え方

国語で正確に理解し適切に表現するために必要な知識及び技能として、語彙などの言葉の特徴や使い方、論理的な思考力の育成につながる情報の扱い方、我が国の言語文化を位置付け、着実な定着が図れるよう内容構造を見直した。また、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確化するとともに、各学習過程で育成を目指す資質・能力が明確になるよう改善を図った。

#### 2 目標の改善

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科で育成を目指す資質・能力を、従前の目標から「正確に理解」「適切に表現」の順に変更し、国語で正確に理解し適切に表現する言語能力については、言語活動を通して育成することを示すとともに、育成を目指す三つの柱で整理し、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示した。学年の目標についても、これまで各領域で示していた目標を、教科の目標と同様に三つの柱で整理した。

- Point** (1) 各学年の目標は全学年同じであり、日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるよう示している。
- (2) 考える力 …………… 順序立てて考える力(1・2年) → 筋道立てて考える力(3年以降)  
自分の思いや考え …… もつ(1・2年) → まとめる(3・4年) → 広げる(5・6年)
- (3) 言葉がもつよさ …… 感じる(1・2年) → 気付く(3・4年) → 認識する(5・6年)  
読書 …………… 楽しんで(1・2年) → 幅広く(3・4年) → 進んで(5・6年)
- ※児童の発達の段階や中学校との接続に配慮しながら、それぞれ系統的に育成を図るよう重点を置いている。

#### 3 学習内容の改善・充実

・これまでの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の1事項で構成していた内容を、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直すとともに、各指導事項で育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善した。

・従前の内容のうち、国語で正確に整理し適切に表現するために必要な「知識及び技能」と明示し、内容を「言葉の特徴や使い方・情報の扱い方・我が国の言語文化」の3事項とした。

**Point** 中教審答申で指摘された課題を踏まえ、「語彙」「情報の扱い方(新設)」「我が国の言語文化」「漢字」に重点を置き、それぞれにおいて指導の改善・充実を図るよう留意するとともに、系統的・段階的に上の学年につながるよう螺旋的・反復的に繰り返しながら学習させ、確実に習得させるようにする。

第1・2学年には、「言葉の豊かさに関する指導事項」が新設されたので、留意して指導する。

第4学年配当漢字として「都道府県名に用いる漢字25字が追加」されるに伴い、第4・5・6学年において配当漢字と字数の変更が行われたので注意して指導する。

**Point** 〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域で、学習過程のより一層の明確化を図るとともに、全ての領域で「考えの形成」に関する指導事項を位置付け、自分の考えを形成する学習過程を重視した指導を図るよう留意する。

**Point** 「音読、朗読」に関する事項(小学校のみ)が、「知識及び技能」に示されているので留意する。

#### 4 学習指導の改善・充実

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、国語科では、児童が言語活動の中で「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていくことができるよう、学習指導の創意工夫を図ることが求められる。

**Point** 国語科においては、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることができるよう配慮する。

言語能力の向上を図るためには、国語科が中心となり、教科等横断的な視点で教育課程を編成するとともに、外国語活動や外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるよう配慮することが重要である。

指導計画の作成に当たっては、児童の言語能力が螺旋的に高まるよう、発達の段階を見通して目標の系統性を保ちながら、柔軟かつ弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導計画になるよう配慮する。

**Point** 語彙を豊かにするためには、各学年で指導すべき語句のまとまりを中心に、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げるとともに、日常生活でも使いこなせる語句を増やし、確実に習得させることが重要である。

**Point** 「A 話すこと・聞くこと」については、他教科等の学習や学校の教育活動全体の中で、学習したことを使う機会がもてるよう、年間指導計画に意図的、計画的に位置付けることが重要である。また、指導の際は、ICT機器を活用するなど音声言語のための教材を活用し、指導の効果を高めるよう工夫することが大切である。

**Point** 読書の指導については、〔知識及び技能〕の「読書」に関する指導事項と、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の指導を通して、児童の読書意欲を高め、日常生活の読書活動につながるよう配慮することが重要である。学校図書館の利用など、〔知識及び技能〕に示された言語活動例を参考に指導するとともに、学校の教育活動全体における読書指導との密接な連携を図っていく必要がある。

**Point** 書写指導では、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成するために、目的や状況に応じて書き方を判断し、適切に運筆できるよう留意して指導することが重要である。

**Point** 国語科の学習では、情報収集や情報発信の手段として、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設定し、指導の効果を高めるよう工夫することが重要である。